

小学校国語科における「書く力」を高める授業の改善

指導主事 午 来 勝 頭

I 研究の趣旨

1 「書くこと」の指導における課題

- (1) 教育センターにおける小学校基本研修及び専門研修での研修者の声は、「演習や協議は、もっと児童の書く力を高める具体的なものであってほしい。」というものが目立った。特に、「書けない児童に対する有効な手立てやヒントがほしい。」という差し迫った声も寄せられた。
- (2) 全国学力・学習状況調査等から見た「書く力」の実態を踏まえると、授業の改善策として、「書くこと」への抵抗が少ない児童には、条件や課題を与えて目的的な書く活動を取り入れていくことが必要である、ということが指摘されている。

2 研究の方向性

前述した課題や実態等を踏まえ、以下の2点のねらいのもと、「書く力」を高める授業の改善に結び付けていくことを目指し、本研究を行うこととした。

- 研修者のニーズに応える講座の充実を図ること
- 日常の授業における「書くこと」の指導に対する、より具体的な解決策について提案すること

なお、本研究における「『書く力』を高める」とは、従来見られがちであった児童の感想や印象を中心とした生活文からの脱却を目指し、客観的な事象に基づいて自分の考えを「書くこと」への指導の転換を見据えたものである。

II 研究の概要

1 研究の内容・方法

以下の2点の内容について研究を進めた。

- (1) 「書くこと」の授業改善における実際の授業の課題を明らかにしていくこと
方法としては、以下の2点を実施した。
 - ① 教師の実態調査
 - ② 研修者が専門研修で作成した単元指導計画の中から単元指導・評価計画を分析すること

- (2) 課題をもとに、授業改善の方策を探ること
方法としては、以下の2点を実施した。

- ① 教科書教材のよさを生かした指導内容・指導事項を明らかにし、方策を示すこと
- ② スキル学習の視点を取り入れた指導方法を提案すること

2 研究の実際

(1) 実態調査の結果

今回は、アンケートによる教師の意識調査を行い、以下のような課題が明らかになった。なお、データは、福島県内の小学校教員182名からの回答をもとにしている。

① 教師が感じている「書くこと」への児童の苦手意識について

教師は、児童の88%が苦手意識を持っていると感じている。

② 児童の苦手意識の原因について

苦手意識の原因として、「何を書いているのか分からない」「語彙が不足している」「書くことが面倒」「書き方が分からない」等が考えられると回答している。

③ 「書くこと」の指導について

61%の教師が「書くこと」について、指導のしにくさを感じていると回答している。

④ 指導しにくい原因について

指導しにくい原因として、「指導の時間が十分にとれない」「児童の能力に差がある」「児童の表現力が乏しい」等が挙げられている。

⑤ 「書くこと」の指導事項の定着について

「身に付いていない」「あまり身に付いていない」と感じている教師が70%となっている。

⑥ 「書くこと」の指導事項の定着と指導事項の重点化の関係について

クロス集計をした結果、指導事項が「身に付いていない」「あまり身に付いていない」と感じている

場合、どのようなことを重点化して指導しているかという点については、「書くことへの意欲付け」「自分の考えを持つこと」「相手や目的を意識させること」等が主なものとなっている。

⑦ 児童の苦手意識と児童同士の交流の関係について

クロス集計からは、児童同士の交流については、苦手意識の度合いによる特別の差は見られない。

⑧ 「書くこと」の指導事項の定着と児童同士の交流の関係について

指導事項が「身に付いている」と感じているほど、児童同士の交流を取り入れている。

(2) 実態調査から見える授業の課題

前述した実態調査の結果から、以下の4点が課題として見えてきた。

① 児童の実態を踏まえた適切な指導について

「段落相互の関係を考えること」や「順序や中心を考えること」等の「書くこと」の指導事項が十分に身に付いていないととらえているにもかかわらず、「書くことへの意欲付け」や「自分の考えや意見を持つこと」、「相手や目的を意識させること」、「表記の正しさ」、「学習した漢字を使うこと」等、児童の実態を十分に踏まえない指導が中心になっていることが考えられる。

② 指導しにくい原因が児童側にあるととらえていることについて

児童の「能力に差があること」や「表現力が乏しいこと」等が指導しにくい原因であるとするだけでなく、指導内容の重点化や指導方法の工夫によって指導事項が確実に身に付くような授業を行っているのかについて振り返る必要がある。

③ 児童同士の交流で目指すものについて

交流をすること自体は、言語活動ではないと考える。指導の意図がなければ、学習とはならない。「交流」とは、国語科の授業において、「友達の作品のよいところを見つけて感想を伝え合ったり」、「考えの明確さ等について意見を述べ合ったり」、「表現の仕方に着目して助言し合ったり」するような学習ととらえている。

④ 五つの言語意識のバランスのよい指導について

福島県教育委員会が示している五つの言語意識

(『平成20年度学校教育指導の重点』)のうち、「相手意識」「目的意識」は意図的に指導されているが、残りの「場面・状況意識」「方法意識」「評価意識」についての意図的な指導も必要となる。

(3) 単元指導・評価計画から見える課題

小学校専門研修で研修者が作成した第3学年、単元名「分かりやすく書こう」の国語科単元指導計画をもとに述べる。本教材「おもしろいもの、見つけた」は、光村図書、3上「わかば」に掲載されている。

① 教科書教材について※1

ア 教科書には、「どこで、どんなものを見つけたのか、くわしく書いて友だちに知らせましょう。」とリード文が書かれている。その後、「**[1]**知らせたいものを決めよう。」「**[2]**知らせたいことを整理して書こう。」と学習の流れが説明されている。ここでは、特に、「書きだし」「知らせたいこと」「むずび」ということを、児童に意識付けた学習が設定されている。

イ 「**[1]**」「**[2]**」の流れを受けて「**[3]**書いた文章を読み直そう。」と説明され、「構想し、組み立てを考え、文章を書き、評価する」学習が展開される。なお、教科書には、「たいせつ」という項目も設けられ、次のように書かれている。「段落を分けて書く／『おもしろいと思ったところ』『マンホールのふたの様子』『場所』というように、文章の全体には、いくつかの事がらがふくまれています。事がらごとに段落を分けて書くと、分かりやすく、読みやすい文章になります。」これらを児童に意識付けることも大切である。

ウ 「様子をつたえる」とページを設け、書き方の工夫について文章を比較させ、具体的に指導する視点が述べられている点も大切に扱いたい。

② 単元指導計画について

次ページのように、単元の目標の「書く能力」では、「事柄ごとに段落に分け」「順序を考えて」書くことが挙げられているが、指導・評価計画では、「文章を書く」ことだけ示されている。中学年では、「段落」「段落相互の関係」について、重点的に指導することになっているが、「段落」という大切な指導事項が意識されていないことが考えられる。

第3学年 国語科単元指導計画				
1	単元名	分かりやすく書こう 「おもしろいもの、見つけた」		
2	単元設定の理由(省略)			
3	単元の目標	(1) 自分が見つけたおもしろいものをクラスの友だちに知らせようとして書く。(関心・意欲・態度) (2) 伝えたいことが腕み手にきちんと伝わるように、事柄ごとに段落に分け、互いの順序を考えて書く。(書く能力) (3) 句読点を適切に打ち、また、段落の初めは行を改めて書く。(言語についての知識・理解・技能)		
4	指導・評価計画(総時数14時間)	※「書く」段落のみを示す。		
段階	次時	指導内容	学習活動・内容	評価規準【評価方法】
書く	7・8	取材カードを整理し、文章の組み立てを考えさせる。	取材カードを整理し、文章の組み立てを考える。	取材カードを整理し、文章の組み立てを考えることができたか。【ワークシート】
	9・12	取材カードをもとに、段落に気をつけて書く。	カードをもとに、文章を書く。	カードをもとに、文章を書くことができたか。【作文】

(4) 授業改善の見直し

実際の授業をどのように改善していったらいいのか、その方策を、第3学年「分かりやすく書こう」の単元をもとに「教科書教材のよさを生かす」と「スキル学習の視点を取り入れる」の2点から提案したい。なお、今回の研究においては、「スキル学習」の定義については、「スキルは一般に『技能』と訳されている。物事をなしとげるための手腕・熟練であり、技術・技能である。スキル学習は、スキルの習得を目的とする学習である。国語科で学習すべき言語技能を取り上げて、系統的、重点的に学習していく方法を意味している。」を用いる。※2

① 教科書教材のよさを生かす※3

ア 教科書の学習の流れに沿うと、「書きだし」「知らせたいこと」「むすび」ということを意識付けた学習が大切となる。さらに、「書いた文章を読み直そう」と学習が展開され、作品が完成する。「たいせつ」に書かれている内容が最も大切ということになる。

イ 他の教科書教材とのかかわりを見ると、第2学年で「はじめ→中→おわり」について意識付けた指導が、第4学年まで重点的に指導されていることが分かる。本単元での「書きだし→知らせたいこと→むすび」もこの流れにつながる。また、本単元の後に、複合単元として「事がらごとにとまとめ、段落を分けて書く」学習が設定されているが、この単元では、「調べた事柄を書く」活動を中心の学習と設定すると、「段落」という大切な指導事項が抜け落ちてしまうことになる。つまり、前の単元で身に付けた指導事項をもう一度繰り返す

という大切な視点が抜けてしまう。このように、教材同士のつながりを意識し、身に付けた力を生かす場面を設定することが必要となる。

ウ 改めて、本教材を生かす視点からは、「段落ごとに分け、順序を考えさせる」ことを重点化することが大切である。さらに、書く力が高まっている児童には、第5学年・第6学年の指導事項とのかかわりで、「自分の考えの根拠を示すこと」「感じたことと事実とを区別して書くこと」も指導し、「伝わりやすく」書くこととは、「段落」を分けて書くだけではなく、「感じたこと」と「事実」とを区別して書き分けることであると意識付けていくことも大切にしたい。

② スキル学習の視点を取り入れる

本単元においては、スキル学習そのものではなく、その視点を取り入れて、以下の4点を重点化したい。

ア 意味段落のまとまりで書くこと

イ 第2学年、第4学年とのかかわりを意識しながら、「はじめ→中→終わり」を意識して書くこと

ウ 伝えたいこと、書こうとするものの中心を意識して書くこと

エ 読み手が自分の立場から考えることができる根拠や基準を示すこと

この視点を取り入れたワークシートの例と、指導のポイントを以下に示す。

㊦ 書きだし【はじめ】

○ 一文で、自分の伝えたいことを言い切ること

○ 「書きだし」と「むすび」を一致させることで主張点を明確にすること

○ 題名を意識し、一番伝えたいことを書くこと

㊧ 知らせたいこと【中】

○ カードを何枚も使って並べ替えるのではなく、順序は、「知らせたいこと」を書き終えてから番号を付けること

これにより、カードを作るのではなく、順序を意識付けることに重点化をおく。

○ 分かりやすい説明の方法の一つとして、全体から徐々に細かな部分へ説明していく、という視点を持たせること

これにより、従来の指導に見られた「書き手の

主観」を重視した順序からの転換を目指す。

- 書き進んでいる児童には、正しく伝わることを目指して、根拠や基準を大切にすること等を意識付けること

なお、これらの学習については、教科書の「様子をつたえる」の教材をもとに、教師が意図的に書いた文章を比較させ、どちらが「分かりやすい」のかという単元名を意識した指導をする中で、児童に納得させ、必要感を持たせていくことも大切にしたい。

㊦ むすび【終わり】

- 「書きだし」との呼応を大切にすること
- 「さそいかけの言葉」※4だけではなく、もう一度自分の主張を述べて印象付けるようにすること

これにより、自分の主張を明確にすることを重点化する。

㊧ 書き始め・メモ

- 書き始めの5文字を入れ、不足の場合は空欄に続けて書いてもよいこと
- 交流で友達の考えを付せんに書いて貼ってもらったり、参考になったことを書いたりすること
- 交換して読み合った意見を書き合うこと

はじ め	中	はじ め	順 序	記 号	「分かりやすい書く」の「組み立てメモ」の作り方
むす び	知らせたいこと	書きだし		記号	
「書きだし」の5文字を記入し、不足の場合は空欄に続けて書いてもよいこと	「さそいかけの言葉」※4だけではなく、もう一度自分の主張を述べて印象付けるようにすること	「書き出し」との呼応を大切にすること			

III 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 教師の実態調査に基づく指導改善について、課題を見いだすことができた。また、それらの課題

から、具体的な指導方法の工夫について、視点の幾つかが明らかになってきた。

- (2) 感想や印象を中心とした生活文からの脱却を目指した「書くこと」の指導への転換を図っていくため、スキル学習の視点を取り入れた指導の工夫を図った。今回は、第3学年の一つの教材のワークシートの活用の仕方を通して、従来の指導方法より指導の意図を明確にすることができると考える。

2 今後の課題

- (1) 単元に応じた具体的な手立てを講じた授業実践を通して、児童の変容を把握し、手立ての妥当性を検証していく必要がある。
- (2) 現在、各学校で実践されている具体的な指導方法には、広めたいものや、実践を積んでそのよさをとらえ直していきたいものが数多くある。それらのよさを、再度価値付けしていくことも必要である。
- (3) 平成20年3月に告示された新学習指導要領の「書くこと」の領域では、「交流」が新しい指導事項として取り上げられている。「交流」の具体的な方法と有効性について、実践をもとに少しずつ明らかにし、更なる授業の改善に結び付けていきたい。

<引用文献>

- ※1, ※3, ※4 国語 3上 わかば, 3下 あおぞら (光村図書 2008年)
- ※2 国語教育研究大辞典 国語教育研究所編 (明治図書 1988年)

<参考文献>

- 1) 小学校学習指導要領 一部改訂 (文部科学省 2003年)
- 2) 小学校学習指導要領解説 国語編 (文部省 1999年)
- 3) 小学校学習指導要領 (文部科学省 2008年)
- 4) 小学校学習指導要領解説 国語編 (同上)
- 5) ほんとうの「国語力」が身につく教科書 阿部藤子他著 (国語力研究所 2007年)
- 6) 小論文トレーニング 貝田桃子著 (岩波書店 2007年)
- 7) 理科系の作文技術 木下是雄著 (中央公論社 1987年)
- 8) ホンモノの文章力 樋口裕一著 (集英社 2005年)
- 9) 論理的思考力を育てる授業の開発 深谷幸恵著 (明治図書 2003年)